

4. 関連文化財群の設定によるまちづくりの推進

前章に述べた基本理念、基本方針に基づき、歴史文化を活かしたまちづくりを進めるため、有形・無形、指定・未指定を問わず、地域に存在する様々な文化財を、歴史的、地域的関連性等に基づいて一定のまとまりとして「関連文化財群」として設定する。つまり、特定のテーマやストーリーの下で関連性のある文化財を一体としてとらえ、魅力や価値をわかりやすく示すことにより、地域の歴史や文化を語る重要な資産として、総合的に保存・活用していくというものである。

また、「歴史文化保存活用区域」を設定することで、関連文化財群や個々の文化財を核とし、それらと一体となって価値をなす周辺環境を含めて、文化的空間を創出する。これは、文化財のみならず、それを核とした文化的な環境を保護するというものである。このため、今後、下記に示す取り組みにより、歴史文化を活かしたまちづくりを進めるものとする。

(1) 関連文化財群の位置づけ

池田市における歴史文化を活かしたまちづくりを進めていくため、池田市の歴史文化遺産が相互に関係し合い、つくりだされる関連文化財群をものがたりとして構成し、とくに戦略的に地域づくりに展開するものがたりを「池田市における歴史文化ものがたり」として位置づける。

なお、「池田市における歴史文化ものがたり」は、これまでの歴史文化遺産の調査成果ならびにそのもとに整理した「歴史文化の特徴」を踏まえて設定し、池田市の歴史文化の特徴を解説する役割を果たすものでもある。今後の歴史文化遺産の調査・研究の進展や新たな価値付けなどを踏まえて、必要に応じて追加や修正等を加え、より一層魅力的なものがたりとして育んでいくこととする。

※「池田市における歴史文化ものがたり」は、『歴史文化基本構想』策定技術指針（平成24年〈2012〉2月、文化庁文化財部）で定める「関連文化財群」に相当する。

(2) 「池田市における歴史文化ものがたり」の保存・活用の方向性

池田市における歴史文化遺産の保存・活用の取り組みを推進するとともに、その魅力の発信のための各種施策の展開と、探る・学ぶ・保存・管理する、活かす、引き継ぐための担い手となる団体の育成・支援、庁内関係部局や大阪府・近隣市町などを含めた多様な主体間の連携を積極的に図る。

また、具体的な保存・活用方策としては、とくに、優先的・重点的に取り組みを進める区域を選定し、次章で示す「歴史文化保存活用区域」を設定し、同区域を対象とした「保存活用計画」を策定することにより、計画的な取り組みを推進することとする。

(3) 「池田市における歴史文化ものがたり」の設定

池田市の歴史文化の特徴を構成する5つの歴史文化のテーマのもとに、5つの「歴史文化ものがたり」を設定する。

5つのものがたりの概要を表4-1に整理する。

表 4-1 池田市における歴史文化ものがたり

歴史文化のテーマ	基本ストーリー
<p>コミュニティの力で継承する 歴史文化</p>	<p>市民の手で保存が進められた池田^{ちゅうすやま}茶臼山古墳をはじめ、市内の古墳や池田城跡、がんがら火や神田祭^{こうだまつり}、仏像や絵画の継承など、中世以来培われてきたコミュニティの力により、歴史文化を伝えるまちづくりが進められている。</p>
<p>ものづくりの機運に育まれた 歴史文化</p>	<p>古代に機織の技術を伝えたとされるクレハトリ・アヤハトリ伝承をゆかりに、近世には在郷町^{ざいこうまち}として酒づくりや細河の植木などの産業に育まれた池田市の歴史文化は、近代の自動車製造や銀行の創設につながり、これらの伝統がインスタントラーメンの発明などの新たな産業に結びついている。</p>
<p>住宅・教育都市 としての歴史文化</p>	<p>田園都市をモデルとして、電鉄会社が開発した日本で最初の本格的な計画的分譲住宅地は、高度成長期の良好な環境を有するニュータウン建設につながり、教育分野にも力を注ぐ快適な住宅・教育都市として、居住者の誇りにつながっている。</p>
<p>交流が培った 歴史文化</p>	<p>古来、広域での交流がみられ、中世には池田氏の拠点、近世には街道筋の物資集散地・在郷町として賑わい、近代も旧家や新進の企業人らによる文化活動が続くなど、多くの文化の伝播と貴重な文化財を蓄積して、市民の財産として継承され誇りとなっている。</p>
<p>森と水に育まれた 歴史文化</p>	<p>^{さつきやま}五月山や八坂神社などの鎮守の森、猪名川などの河川や市街地を流れる小水路、溜池、菖蒲の咲く水辺など、都市近郊にあって、多様な森と水が育んだ歴史文化遺産を今も継承している。</p>

構成する歴史文化遺産のうち「池田市を特徴づける歴史文化遺産」		
もの	こと	きおく
<ul style="list-style-type: none"> 池田茶臼山古墳 鉢塚古墳 娯三堂古墳 二子塚古墳 池田城跡 八坂神社本殿 道標 上池田薬師堂の薬師如来立像 天満宮狛犬（お蔭踊り） 油かけ地藏さん 濟の神（下渋谷のチョンベイさん）の祠 桜通りの彫刻 	<ul style="list-style-type: none"> 落語みゅーじあむ 愛宕火（がんがら火） 神田祭 額灯と幟の宮入り 畑と木部などで復活したとんど 天満宮・住吉神社の太鼓 地藏盆と数珠くり 新町・紀部神宮・十二神社・五社神社のだんじり 池田郷土史学会の活動 市民の遺跡保存運動・顕彰活動（池田城跡・池田茶臼山古墳・牡丹花肖柏遺愛碑・望海亭記碑等） 	<ul style="list-style-type: none"> 池田の猪買い・池田の牛ほめ 端午の節供と豆芝居 呉服座の碑 《明治座や映画館》 おんぱのふ（ほ）ところなど伝承地区 《国訴》 《亥の子・ヒツツンツン》 池田村絵図 《西畑の寒施行》 《涅槃会》 井戸の辻の井戸
<ul style="list-style-type: none"> 伊居太神社 呉服神社 稲束家住宅 旧加島銀行池田支店（河村商店） 旧池田実業銀行本店（いけだピアまるセンター） 旧池田銀行本店（池田泉州銀行池田営業部） 吉田酒造 呉春（酒造） 桶樽作り用具 いとや百貨店 久安寺楼門・阿弥陀如来坐像 	<ul style="list-style-type: none"> 田村駒治郎とビリケンさん 細河植木畑 池田酒 カップヌードルミュージアム 大阪池田 インスタントラーメンの発明 ダイハツ工業 ヒューモビリティワールド ダイハツミゼット 産総研（旧大工試） 大工試の電気自動車と光学レンズ 阪急電鉄 池田みかんの復活 畑の梅林の復活（水月公園） 池田炭 	<ul style="list-style-type: none"> クレハトリ・アヤハトリの伝承（絹掛けの松・星の宮・伝承 唐船が淵・染殿井・姫室碑） 《中世の「市庭」》 《朱印状と特権》 《在郷町池田の「市」》 接木巧者「橋兵衛」の賜名 秦野鉱山 《猪名川通船》 《江戸積み極上酒（岸上商店・第一酒造）》 《池田木綿》 池田村絵図 めんも坂と牛追い坂 《旧陸軍造兵廠池田工場のエントツ》 《石橋温室村》 余野川発電所跡
<ul style="list-style-type: none"> 室町住宅 呉羽の里・満寿美・石橋荘園の住宅 園芸高校の苗圃 小林一三記念館 池田小学校の登龍門と戦前の鉄筋校舎 	<ul style="list-style-type: none"> 室町会館の活動 池田郷土史学会の活動 呉服小学校の吹奏楽 市民の遺跡保存運動 五月ヶ丘団地 高校アメフト発祥の碑（池田高校） 附属小中高校・園芸高校・宣真高校 逸翁美術館 池田駅（阪急電鉄本店所在地） 	<ul style="list-style-type: none"> 師範学校を偲ぼす並木 池田城跡の塾跡碑 地域誌・地域紙 家なき幼稚園（室町幼稚園） 東くめと鳩ぼっぽ 《ヴォーリズの池田教会》 池田村絵図 《日教組初代委員長の輩出》 池田文庫蔵の近代化産業遺産
<ul style="list-style-type: none"> 鉢塚古墳 伊居太神社 呉服神社 式内社細川神社 能勢街道・西国街道・有馬道 五社神社十三重塔 池田城跡 道標 大広寺と田中桐江・小林一三・三好風人・鴻池家・力士の墓・シーボルト追善碑 西光寺・桃園墓地などの文人・力士の墓 仏日寺と麻田藩主の墓 石橋南小学校の「石橋」の石 	<ul style="list-style-type: none"> ローンセストン市との交流（ウォンバット・ワラビーの寄贈） 蘇州市との交流（斉芳亭・寒山寺鐘の寄贈） 池田炭 池田文庫 逸翁美術館 国や府の官公庁集中 緑楓台 	<ul style="list-style-type: none"> 《土師氏と呉庭荘の開発》 《佐伯村》 渡来氏族秦氏 牡丹花肖柏 《掛物講と月並句会》 《中世連歌の会》 《中世の「市庭」》 《織田信長の池田城攻め》 《在郷町池田の「市」》 《藩・旗本・幕府領などの所領》 蕪村と呉春 《近世池田文化》 隠元と黄檗宗 稲束家 《豊能郡役所》 豊臣秀吉像画稿など逸翁美術館所蔵品 考古・文人・立教舎など歴史民俗資料館所蔵品 《江戸時代の広域連合村の国訴》 池田村絵図 順礼橋 池田の猪買い・池田の牛ほめ 現在に残る「クレハ」という地名
<ul style="list-style-type: none"> 八坂神社のイスノキ・早苗の森 自性院のカイズカイブキ 五月山 巨樹・巨木 猪名川・小水路・溜池 石澄の滝 オオサンショウウオ（猪名川・箕面川） 	<ul style="list-style-type: none"> さくらまつり 菖蒲まつり 自然観察会 猪名川花火大会 五月山動物園 池田の自然展 日の丸展望台 	<ul style="list-style-type: none"> 塩増山大広寺の池 奥池の雨乞石とみろくさん 伝承 弁慶の泉 辻ヶ池公園などの碑（公共施設などに替わった溜池） 《猪名川遊泳場とボート屋》 《畑の梅林と馬車》 《秦のラジウム温泉》 猪名川の水害記念碑 橋本久太郎翁之碑 失業対策事業終了碑（五月山開発） 《五月山の松茸狩り》 桜通り

表 4-2 コミュニティの力で継承する歴史文化

歴史文化のテーマ	コミュニティの力で継承する歴史文化	
ストーリー	<p>市民の手で保存が進められた池田茶臼山古墳をはじめ、市内の古墳や池田城跡、がんがら火や神田祭、仏像や絵画の継承など、中世以来培われてきたコミュニティの力により、歴史文化を伝えるまちづくりが進められている。</p> <p>○市民の手によって進められた池田茶臼山古墳などの保存活動</p> <p>池田市には現在、「池田茶臼山古墳」「鉢塚古墳」「娯三堂古墳」など、11 基の古墳が残されている。住宅地の造成などによって、いくつかの古墳が失われたが、なかには、市民活動によって守られたものがある。池田茶臼山古墳は、五月ヶ丘住宅地開発によって失われる計画であったが、地元有志による活動により、現状のままで五月ヶ丘団地内に茶臼山公園として保存され、高く評価されている。</p> <p>また、室町時代から戦国時代にかけて活躍した国人池田氏の居城・池田城の跡にあった大阪教育大学学生寮の改築が昭和 43 年（1968）に計画された際、城の遺構の破壊を危ぶんだ郷土史家らを中心に、「池田城址を護る会」が結成され、熱心な保存運動を展開した。併行して発掘調査が行われ、建物跡や庭園跡など、池田城跡の遺構が検出され、改築計画の中止が決定されることとなった。</p> <p>このように、市民だけで遺跡保存運動を行ったことは前例がなく、これらの活動は、池田市民の文化力の高さを物語るものである。</p> <p>ほかにも、上池田薬師堂の薬師如来立像のように、市域の寺社等では、古代来の仏像をはじめ、様々な文化財が地域で守り伝えられてきた。また、江戸時代来、牡丹花肖柏を顕彰する碑など様々な記念碑が建立されたり、近代以降も素封家による池田文化の掘り起こしなど、常に市井の人びとが自身のまちの過去と営みを振り返り、顕彰・継承・発展させる活動が積み重ねられている。</p> <p>○伝統行事の継承</p> <p>池田市では、今日まで伝統行事が残され、地域に息づいているが、その背景には、地域コミュニティによるものが大きい。</p> <p>毎年 8 月 24 日に行われる火伏せの神事「愛宕火」は、家内安全、火災厄除けの祭りとして、正保元年(1644) に始まったとされており、現在まで 300 年以上の間、城山町と建石町の人びとを中心に継承されている。</p> <p>また、お地蔵さんをお祭りして、子どもが健やかに育つようにお祈りをする地蔵盆が、毎年 8 月 23 日ないし 24 日に行われている。現在では様相を変え、名前入りの提灯を飾るのみの地区が多数だが、数珠くりの残る地区もある。</p> <p>本殿が国指定重要建造物である八坂神社では、毎年 10 月 22 日前後に神田祭が開催される。起源は宝暦 6 年（1756）以前に遡り、250 年以上もの間、続けられている。今も額灯と幟の宮入りが行われ、貴重で珍しい祭礼である。</p> <p>なかには復活した伝統行事もある。豊作を祝う天満宮の太鼓は、郷土を愛する若者たちによって復活した。また、正月最後の行事である「とんど」も、畑、渋谷地区で復活している。</p> <p>地域文化の継承とさらなる地域コミュニティの醸成に寄与するものとして、平成 19 年（2007）4 月には、市立としては日本初となる「落語みゅーじあむ」を開館し、「落語のまち池田」に関する情報の発信を行うほか、北大阪ミュージアムネットワークなどを通して広域での情報発信を行っている。また、市民の文化財への理解を深める活動などにより、次世代の担い手育成に努めている。</p>	
	池田市を特徴づける歴史文化遺産 《 》今はみられないもの	もの
	こと	<ul style="list-style-type: none"> ◆落語みゅーじあむ ◆愛宕火（がんがら火） ◆神田祭 額灯と幟の宮入り ◆畑と木部などで復活したとんど ◆天満宮・住吉神社の太鼓 ◆地蔵盆と数珠くり ◆新町・紀部神宮・十二神社・五社神社のだんじり ◆池田郷土史学会の活動 ◆市民の遺跡保存運動・顕彰活動（池田城跡・池田茶臼山古墳・牡丹花肖柏遺愛碑・望海亭記碑等）
	きおく	<ul style="list-style-type: none"> ◆池田の猪買い・池田の牛ほめ ◆端午の節供と豆芝居 ◆呉服座の碑 ◆《明治座や映画館》 ◆おんぼのふ（ほ）ところなど伝承地区 ◆《国語》 ◆《亥の子・ヒツツンソン》 ◆池田村絵図 ◆《西畑の寒施行》 ◆《呈樂会》 ◆井戸の辻の井戸

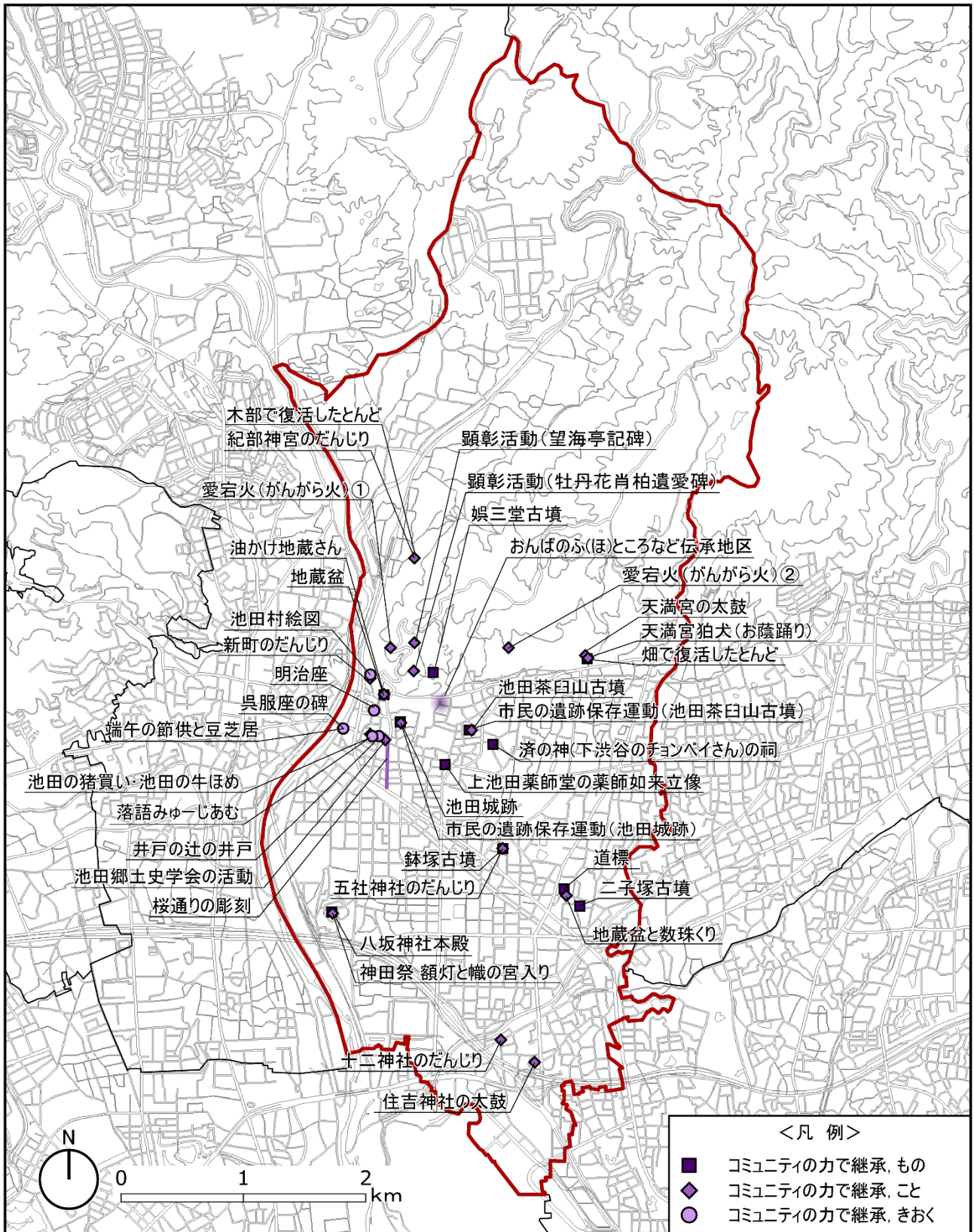


図4-1 コミュニティの力で継承する歴史文化遺産

表 4-3 ものづくりの機運に育まれた歴史文化

歴史文化のテーマ		ものづくりの機運に育まれた歴史文化
ストーリー		<p>古代に機織の技術を伝えたと言われるクレハトリ・アヤハトリ伝承をゆかりに、近世には在郷町として酒づくりや細河の植木などの産業に育まれた池田市の歴史文化は、近代の自動車製造や銀行の創設につながり、これらの伝統がインスタントラーメンの発明などの新たな産業に結びついている。</p> <p>○クレハトリ・アヤハトリ伝承 応神天皇のころ、大陸から呉織・穴織の2人の女性がこの地に渡り、織物の技術を伝えたという伝承が残っており、市内には、2人を乗せた船が着いたとされる「伝承 唐船が淵」、糸を染めた井戸とされる「染殿井」、絹を干したとされる「絹掛けの松」、機を織ったところといわれる「星の宮」、そして呉織が祀られたとされる「呉服神社」、穴織が祀られたとされる「伊居太神社」など、このクレハトリ・アヤハトリ伝承ゆかりの旧跡が各所に残されている。また、市草もこの伝承をもとにつくられており、池田市の文化の形成に深く関与している。</p> <p>○商業に育まれた池田のものづくり 近世には街道筋が整備され、後背地の能勢郡や川辺郡と大坂方面の中間点という地理的な条件から、食糧や衣服をはじめ、器物・薪・炭など物資の中継地として繁栄し、池田は北摂における物流の一大拠点となり、商工業者が集住する小都市的な集落、「在郷町」として成長した。 近世中頃、池田酒は銘酒として好評を博し、盛んに江戸の市場へ運送された。酒蔵も、最盛期には30蔵以上あった。 また、元禄期の池田は、繰綿・木綿の加工集散地として名を上げており、「池田木綿」として高く評価され、特産物の一つとなっていた。 池田は炭の集散地としても知られ、「池田炭」はその切り口から「菊炭」ともよばれ、今日でも茶の世界では最上の炭として珍重されている。 細河の植木の生産は、戦国時代末期から江戸時代初頃に始まり、飛躍的に発展した。承応2年(1653)、接木の名人六蔵が火災に遭った内裏の橋の接木に成功し「橋兵衛」の名を賜ったという伝承が残るなど、細河の接木技術の高さが伝わっている。江戸時代後期には全国各地に、昭和の初めには世界にまで販路が開かれた。なお、植木畑の北部の伏尾町にある久安寺は楼門が国指定重要建造物に指定され、多くの訪問者を迎えている。 池田では、このように物流を活かしながら、ものづくりを発展させ、大きな特徴の一つとなった。</p> <p>○発明・開発によるものづくり 戦後、新しい生活スタイルが生まれ、家事の合理化が求められていた。その要求に応え、日清食品株式会社創業者の安藤百福は、世界初のインスタントラーメン「チキンラーメン」を発明した。昭和33年(1958)の発売とともに大ヒットとなり、日本のみならず、世界の食文化にも多大な影響を与えている。 復興した商業が相対的に伸び悩むなか、工業都市としての面も強めていく。昭和36年(1961)、理研光学工業株式会社(現株式会社リコー)大阪工場と、ダイハツ工業株式会社池田第二工場が竣工し、大阪工業技術試験所(現産業技術総合研究所関西センター)の先駆的な電気自動車の開発、昭和56年(1981)の株式会社リコーの電子技術開発センター竣工による半導体製造の開始など、新しい技術と製品が次々に池田で生み出された。 新たなものづくりが進められる一方で、細河の植木技術の伝承、池田みかんの復活など、池田市で育まれたものづくりの技術を、将来に引き継ぐ試みがなされている。</p>
	池田市を特徴づける歴史文化遺産 《 》今はみられないもの	<p>もの</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆伊居太神社 ◆呉服神社 ◆稲東家住宅 ◆旧助昌銀行池田支店(河村商店) ◆旧池田実業銀行本店(いりだピアまるセンター) ◆旧池田銀行本店(池田泉州銀行池田営業部) ◆吉田酒造 ◆呉春(酒造) ◆櫛樽作り用具 ◆いとや百貨店 ◆久安寺楼門・阿弥陀如来坐像 <p>こと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆田村駒治郎とピリケンさん ◆細河植木畑 ◆池田酒 ◆カップヌードルミュージアム 大阪池田 ◆インスタントラーメンの発明 ◆ダイハツ工業 ◆ヒューモビリティワールド ◆ダイノミゼット ◆産総研(旧大工試) ◆大工試の電気自動車と光学レンズ ◆阪急電鉄 ◆池田みかんの復活 ◆畑の梅林の復活(水月公園) ◆池田炭 <p>きおく</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆クレハトリ・アヤハトリの伝承(絹掛けの松・星の宮・伝承 唐船が淵・染殿井・姫室碑) ◆《中世の「市庭」》 ◆《朱印状と特権》 ◆《在郷町池田の「市」》 ◆接木巧者「橋兵衛」の賜名 ◆秦野山 ◆《(著名川)通船》 ◆《江戸横濱極上酒(岸上商店・第一酒造)》 ◆《池田木綿》 ◆池田村松園 ◆めんち坂と牛追い坂 ◆《旧陸軍造兵廠池田工場のエントツ》 ◆《石橋温泉村》 ◆余野川発電所跡

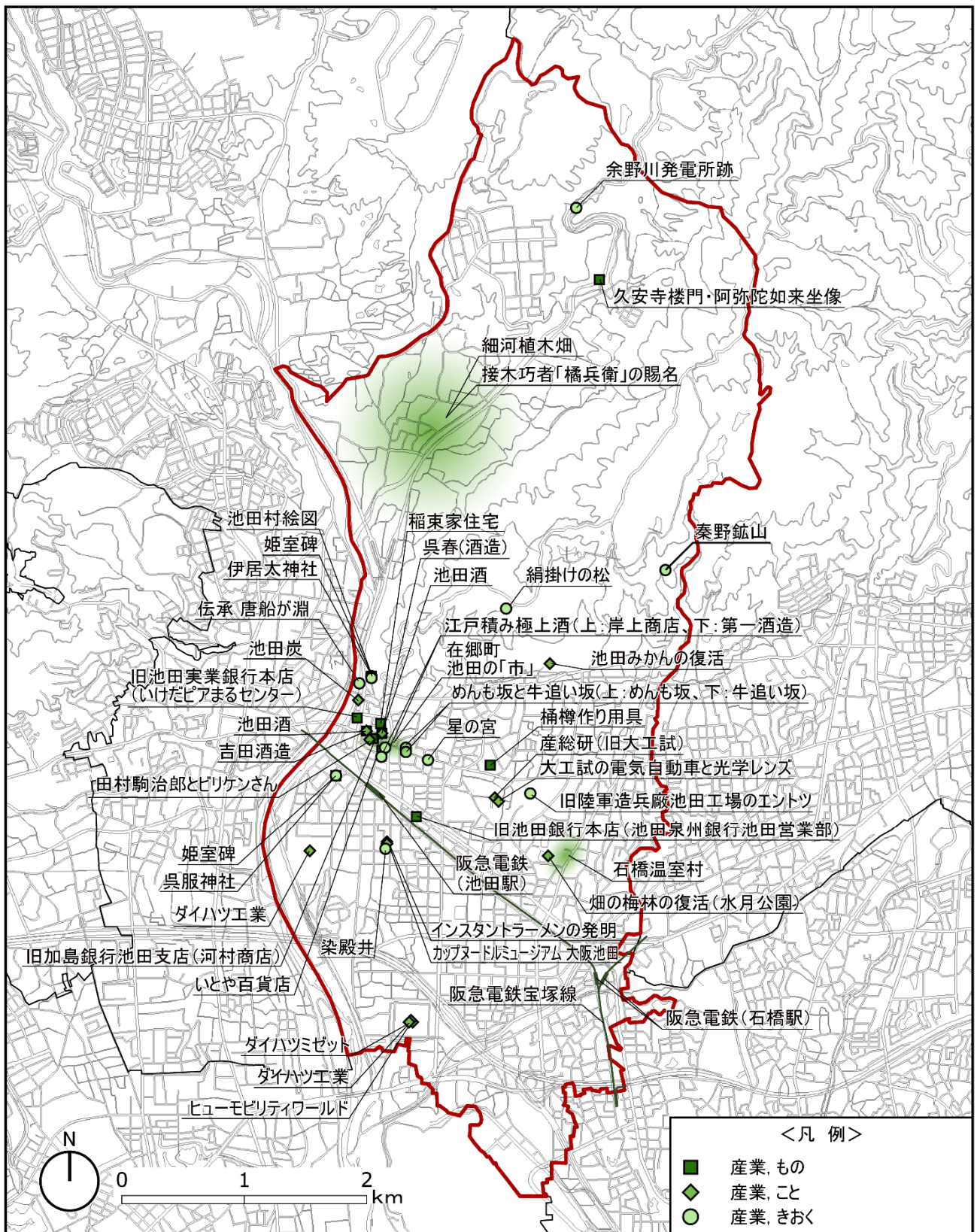


図 4-2 ものづくりの機運に育まれた歴史文化遺産

表 4-4 住宅・教育都市としての歴史文化

歴史文化のテーマ		住宅・教育都市としての歴史文化
ストーリー		<p>田園都市をモデルとして、電鉄会社が開発した日本で最初の本格的な計画的分譲住宅地は、高度成長期の良好な環境を有するニュータウン建設につながり、教育分野にも力を注ぐ快適な住宅・教育都市として、居住者の誇りにつながっている。</p> <p>○池田市の住宅整備 明治 43 年 (1910)、箕面有馬電気軌道株式会社(現阪急電鉄株式会社)の梅田-宝塚間、石橋-箕面間が開通し、市域に、池田・石橋の 2 駅が置かれた。小林一三の企画構想により、池田駅西南一帯に、わが国最初の電鉄会社による本格的な郊外分譲住宅(室町住宅)を造成した。同時に、住民の交流を目的とした倶楽部や生活用品の購買組合の設置など、地域コミュニティの創設も図った。 この室町住宅開発に誘発されて、市域では新たな資本による住宅開発が続く。大正 7 年 (1918) に満寿美住宅地、大正 13 年 (1924) に石橋荘園住宅が販売された。昭和 7 年 (1932) には阪急電鉄株式会社による石橋温室村が現在の鉢塚に、昭和 12 年 (1937) には、呉羽の里住宅が現在の旭丘につくられた。相次ぐ住宅地の出現、新しい住まいの様式と生活スタイル、サラリーマン層などの居住者の流入、新たな産業の創出など、まちの有り様が変わり始めた。この流れを決定づけたのが、昭和 10 年 (1935) の府道大阪-池田線(現国道 176 号)の市域開通であった。利便性の高い交通、広大な用地が容易に確保できることなどから、市の中心地が南下し、さらに池田市は、大阪の衛星都市、住宅都市へと大きく変容していった。 戦後、住宅不足に対応するため、昭和 24 年 (1949) の大阪府による池田団地、池田市による市営住宅が順次建設された。昭和 30 年代に入ると、大阪府住宅協会(現大阪府住宅供給公社)団地も次々につくられた。昭和 33 年 (1958)、日本住宅公団(現独立行政法人都市再生機構)による池田団地、翌 34 年 (1959) に五月ヶ丘団地、37 年 (1962) に緑ヶ丘団地と、同公団の大型団地が誕生した。昭和 47 年 (1972) には伏尾台住宅地の入居も始まっている。</p> <p>○池田市の教育機関の開設 近代教育制度の確立は明治 5 年 (1872) の学制公布から始まった。明治 6 年 (1873) 4 月、豊島郡第一区第一番小学校(現市立池田小学校)が創設され、開校式に臨席した大阪府知事による自筆「登龍門」の碑が今も校庭に建っている。続いて、明治 7~8 年 (1874~75) に、豊島郡第二区第三番小学校(現市立北豊島小学校)・豊島郡第一区第四番小学校(旧市立細河小学校)・豊島郡第一区第八番小学校(現市立秦野小学校)が創設された。明治 36 年 (1903) に、地元の寄付による援助もあり、大阪府立池田中学校が、明治 41 年 (1908) に、熱心な誘致運動が実り、大阪府池田師範学校(現大阪教育大学)が開校した。大正 8 年 (1919) には池田師範学校の専属附属小学校が独立開校した。 大正期には、実業学校や女子中等教育機関が次々と設立された。大正 4 年 (1915) に豊能郡立農林学校(現大阪府立園芸高等学校)、大正 6 年 (1917) に池田女子手芸学校(現大阪府立渋谷高等学校)、大正 10 年 (1921) には私立宣真高等女学校(現宣真高等学校)と北豊島村立女子実業補修学校が開校するなど、地域の熱意と要望にも支えられて、教育施設はさらに充実した。 昭和に入ると、昭和 14 年 (1939) に元満州国初代総務長官駒井徳三による興亜時習社、昭和 15 年 (1940) に阪急電鉄株式会社による池田商業専修学校、昭和 16 年 (1941) に大阪市から移転改称した大阪府立池田中学校(現大阪府立池田高等学校)など、新たな教育機関の開設が続いた。 近世より続く教育と文化のまちの伝統は、新しい文化と融合しながら展開し、今でも、より良い住宅・教育都市を目指す努力が続けられている。</p>
	池田市を特徴づける歴史文化遺産 《 》今はみられないもの	<p>もの ◆室町住宅 ◆呉羽の里・満寿美・石橋荘園の住宅 ◆園芸高校の苗圃 ◆小林一三記念館 ◆池田小学校の登龍門と戦前の鉄筋校舎</p> <p>こと ◆室町会館の活動 ◆池田郷土史学会の活動 ◆呉服小学校の吹奏楽 ◆市民の遺跡保存運動 ◆五月ヶ丘団地 ◆高校アメフト発祥の碑(池田高校) ◆附属小中高校・園芸高校・宣真高校 ◆逸翁美術館 ◆池田駅(阪急電鉄本店所在地)</p> <p>きおく ◆師範学校を偲ぶす並木 ◆池田城跡の塾跡碑 ◆地域誌・地域紙 ◆家なき幼稚園(室町幼稚園) ◆東くめと鳩まつぼ ◆《ヴォーリスの池田教会》 ◆池田村絵図 ◆《旧教組初代委員長の輩出》 ◆池田文庫蔵の近代化産業遺産</p>

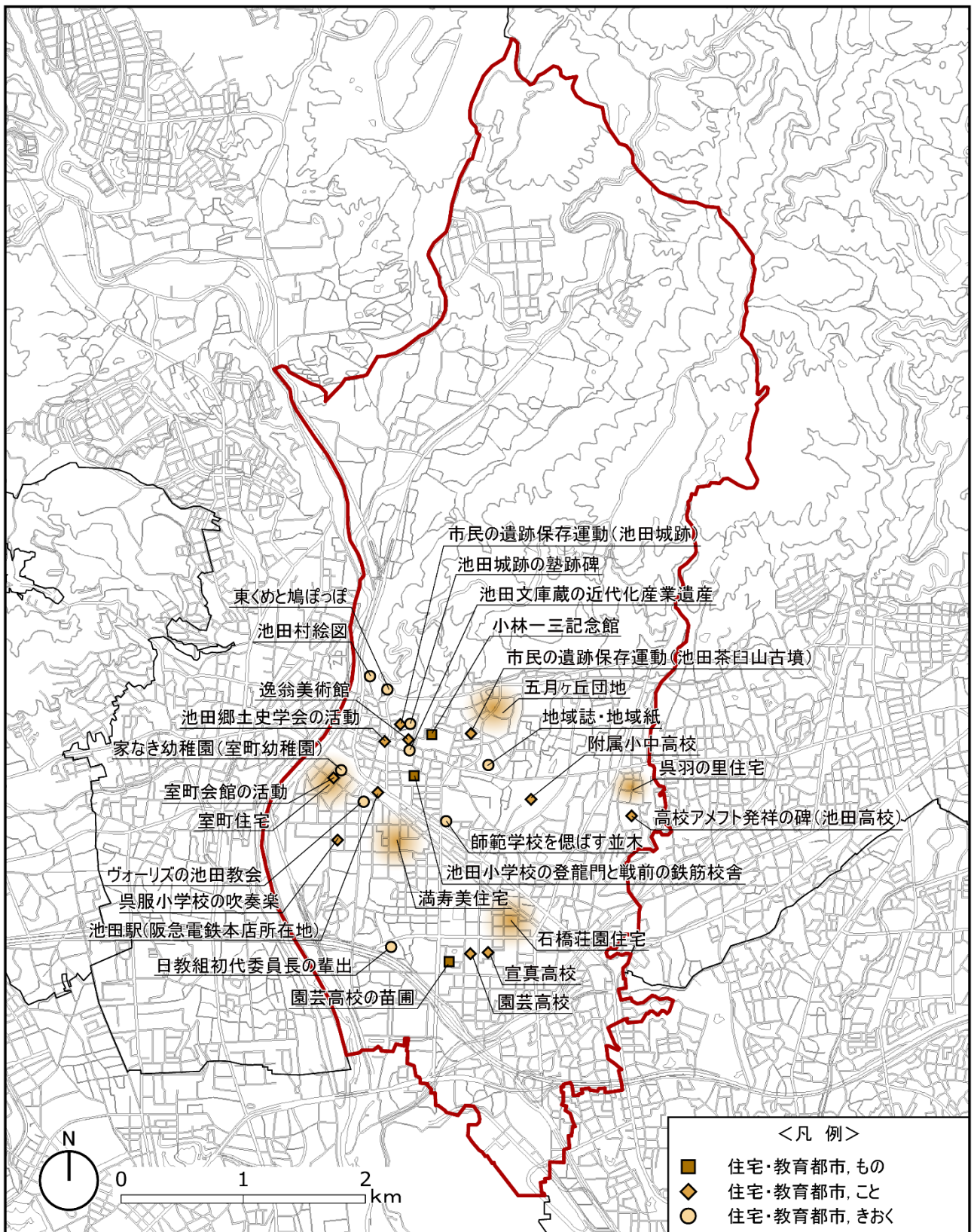


図 4-3 住宅・教育都市としての歴史文化遺産

表 4-5 交流が培った歴史文化

歴史文化のテーマ	交流が培った歴史文化	
ストーリー	<p>古来、広域での交流がみられ、中世には池田氏の拠点、近世には街道筋の物資集散地・在郷町として賑わい、近代も旧家や新進の企業人らによる文化活動が続くなど、多くの文化の伝播と貴重な文化財を蓄積して、市民の財産として継承され誇りとなっている。</p> <p>○～中世</p> <p>池田市の交流の歴史は、旧石器時代にまで遡り、続く縄文・弥生時代と人びとが広く交流しながら技術を集積していった生活の痕跡が残る。</p> <p>古墳時代後期には、当地の古墳の盛衰が中央政権の変動に連動していたと考えられている。また、鉢塚古墳が、京都市太秦地方の石室と同じ特徴をもつことから、秦氏の勢力がこの地に及んでいたことなども推測されている。なお、同古墳内には国指定重要建造物である鎌倉時代の十三重塔が立つ。古代末には、河内国に出自をもつ土師氏によって呉庭荘が開発された。</p> <p>室町時代に入ると池田氏が台頭し、国人へと成長。居城池田城も築造され、池田は地域支配の拠点となった。町屋が成立したのもこの頃である。また、連歌師牡丹花肖柏ら多数の文人が池田氏のもとを訪れ、のちの池田文化隆盛の種をまいた。</p> <p>○近世～現代</p> <p>近世には街道筋が整備され、後背地の能勢郡や川辺郡からも、大坂方面からも往復1日程度の中継点という地理的な条件から、食糧や衣服をはじめ、池田炭などの物資の中継地として繁栄。池田は北摂における物流の一大拠点となり、商工業者が集住する小都市的な集落「在郷町」として発展した。現在も、当時の大坂と能勢妙見山を結ぶ能勢街道や、京都と西国を結ぶ西国街道や池田と亀山（現亀岡）をつなぐ久安寺亀山道（余野街道）のほか、中山道（巡礼道）、尼崎伊丹道、有馬道など、多くの旧街道が交差しており、道標からも当時の名残を垣間みることができる。</p> <p>集積した豊かな経済力を背景に、酒造家や問屋商人などの旦那衆たちは、俳諧・和歌・漢詩文・絵画などに雅懐をよせ、俳人と謝蕪村や高井几董に代表される当代一流の文人とつながることもあった。また、豊かで文雅な土地柄に惹かれ、来遊や来往した文人も多かった。儒学者・田中桐江、画家で四条派の祖・呉春（松村月溪）、幕末の勤皇儒学者・広瀬旭荘らがその代表である。こうした文人たちとの交流は、彼らの文化的素地を高め、池田と京・大坂を文化的に結び、やがて池田文化とも呼ばれる文化を醸成し、開花させた。</p> <p>近年では、昭和40年（1965）にオーストラリアのローンセストン市と姉妹都市提携を結び、その記念としてウォンバットやワラビーなどが寄贈された。また、昭和56年（1981）には中国の蘇州市と友好都市を締結し、斉芳亭・寒山寺鐘が寄贈されるなど、世界に向けた交流も進められている。</p>	
	池田市を特徴づける歴史文化遺産 <small>《 》今はみられないもの</small>	もの
	こと	<ul style="list-style-type: none"> ◆ローンセストン市との交流（ウォンバット・ワラビーの寄贈） ◆蘇州市との交流（斉芳亭・寒山寺鐘の寄贈） ◆池田炭 ◆池田文庫 ◆逸翁美術館 ◆国や府の官公庁集中 ◆緑楓台
	きおく	<ul style="list-style-type: none"> ◆《土師氏と呉庭荘の開発》 ◆《佐伯村》 ◆渡来氏族秦氏 ◆牡丹花肖柏 ◆《掛物講と月並句会》 ◆《中世連歌の会》 ◆《中世の「市庭」》 ◆《織田信長の池田城攻め》 ◆《在郷町池田の「市」》 ◆《藩・旗本・幕府領などの所領》 ◆蕪村と呉春 ◆《近世池田文化》 ◆隠元と黄檗宗 ◆稲束家 ◆《豊能郡役所》 ◆豊臣秀吉画像稿など逸翁美術館所蔵品 ◆考古・文人・立教舎など歴史民俗資料館所蔵品 ◆《江戸時代の広域連合村の国語》 ◆池田村絵図 ◆順礼橋 ◆池田の猪買い・池田の牛ほめ ◆現在に残る「クレハ」という地名

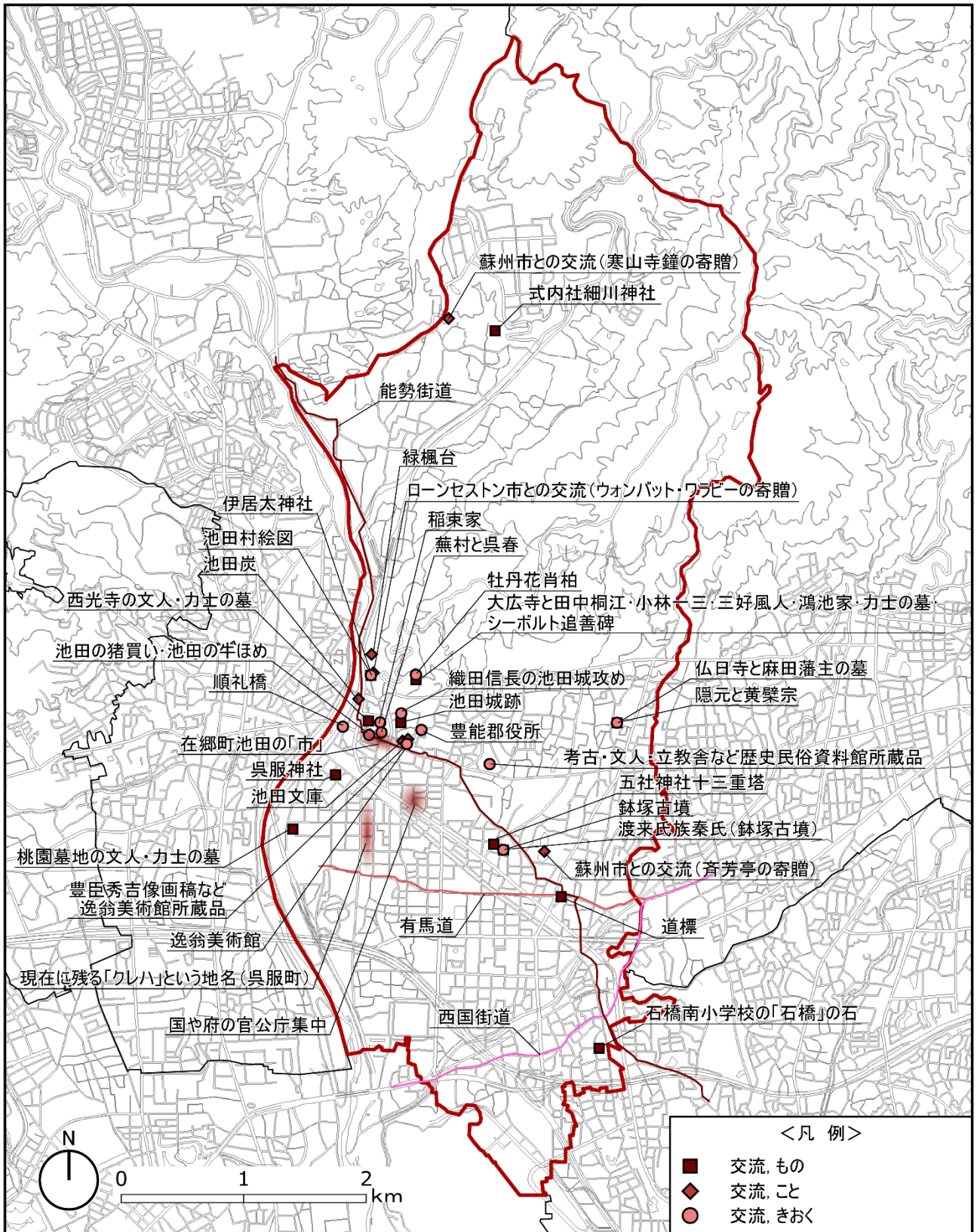


図 4-4 交流が培った歴史文化遺産

表 4-6 森と水に育まれた歴史文化

歴史文化のテーマ		森と水に育まれた歴史文化
ストーリー		<p>五月山や八坂神社などの鎮守の森、猪名川などの河川や市街地を流れる小水路、溜池、菖蒲の咲く水辺など、都市近郊にあって、多様な森と水が育んだ歴史文化遺産を今も継承している。</p> <p>○自然を中心にみた池田の地理的位置づけ 北摂地方のなかでの池田の地理的位置づけを、自然を中心にみると、池田は北摂山地と大阪平野の境目にあり、北摂山地から大阪平野へ流れ出る川はいずれも深い谷を刻み、渓谷や狭隘な河谷であるのに対して、池田の猪名川河谷のみが谷口近くに山間盆地を有し、支流久安寺川との間に逆三角形の盆地が開けていることがわかる。このような地形は、池田が狭義の後背地に恵まれたまちであることを物語っている。</p> <p>○森との関わり 市の中央には五月山の緑が広がり、西部には猪名川が流れ、四季折々の風景が楽しめる。五月山山系以南は市街化されているが、北部の細河地区には植木畑などの農地が維持されており、ミスジチョウやスジボソヤマキチョウなどの希少種のチョウの生息が確認されている。 五月山の西側斜面は、緑地保全を中心に整備を行っている五月山緑地（通称五月山公園）になっており、サクラやツツジ、紅葉の名所として知られている。また、山頂の展望台をはじめ、五月山児童文化センターでは自然観察会、都市緑化植物園では展示会や講習会などが催され、市民が自然と親しむ場として整備されている。</p> <p>八坂神社をはじめ、神社に付随する鎮守の森は、池田市の自然的・文化的景観を形成している。また、八坂神社のイスノキ（樹齢約 350～400 年）、自性院のカイツカイブキ（樹齢約 400 年）は、市の史跡名勝天然記念物に指定されているほか、市域には、エノキ、ムクノキ、モミなどの巨樹がみられる。</p> <p>○水との関わり 市の西部には猪名川が流れ、河川敷の開放的な空間が広がっており、夏には猪名川花火大会が開催されるなど、魅力的な水辺空間が創出されている。 また、清流に生息するといわれるオオサンショウウオが猪名川・箕面川で確認されているほか、カイツブリやカワウなどをはじめとした鳥類の生息、飛来が確認されており、豊かな自然が景観をつくりだしている。 古くは農業の振興とともに、多くの溜池が築造されたが、戦後に住宅建設や公共施設の用地として大半が埋め立てられた。現在では数少なくなっているが、かつては、農業用水の供給として大きな役割を担って整備されたものであり、祖先がつくった文化遺産の一つと言える。 池田の自然と人との深い関わりは、「塩増山大広寺の池」「奥池の雨乞石とみろくさん」「弁慶の泉」など、自然に関する昔ばなしが多く残されていることから、うかがい知ることができる。 自然環境に関わる市民団体による自然観察会やイベント、市役所で毎年行われている池田の自然展での啓発活動などを通して、これらの貴重かつ良好な自然環境を維持・保全する取り組みが進められている。</p>
	池田市を特徴づける歴史文化遺産 《 》今はみられないもの	<p>もの</p> <p>◆八坂神社のイスノキ・早苗の森 ◆自性院のカイツカイブキ ◆五月山 ◆巨樹・巨木 ◆猪名川・小水路・溜池 ◆石澄の滝 ◆オオサンショウウオ（猪名川・箕面川）</p> <p>こと</p> <p>◆さくらまつり ◆菖蒲まつり ◆自然観察会 ◆猪名川花火大会 ◆五月山動物園 ◆池田の自然展 ◆日の丸展望台</p> <p>きおく</p> <p>◆塩増山大広寺の池 ◆奥池の雨乞石とみろくさん ◆伝承 弁慶の泉 ◆辻ヶ池公園などの碑（公共施設などに替わった溜池） ◆《猪名川遊泳場とボート屋》 ◆《畑の梅林と馬車》 ◆《秦のラジウム温泉》 ◆猪名川の水害記念碑 ◆橋本久太郎翁之碑 ◆失業対策事業終了碑（五月山開発） ◆《五月山の松茸狩り》 ◆桜通り</p>

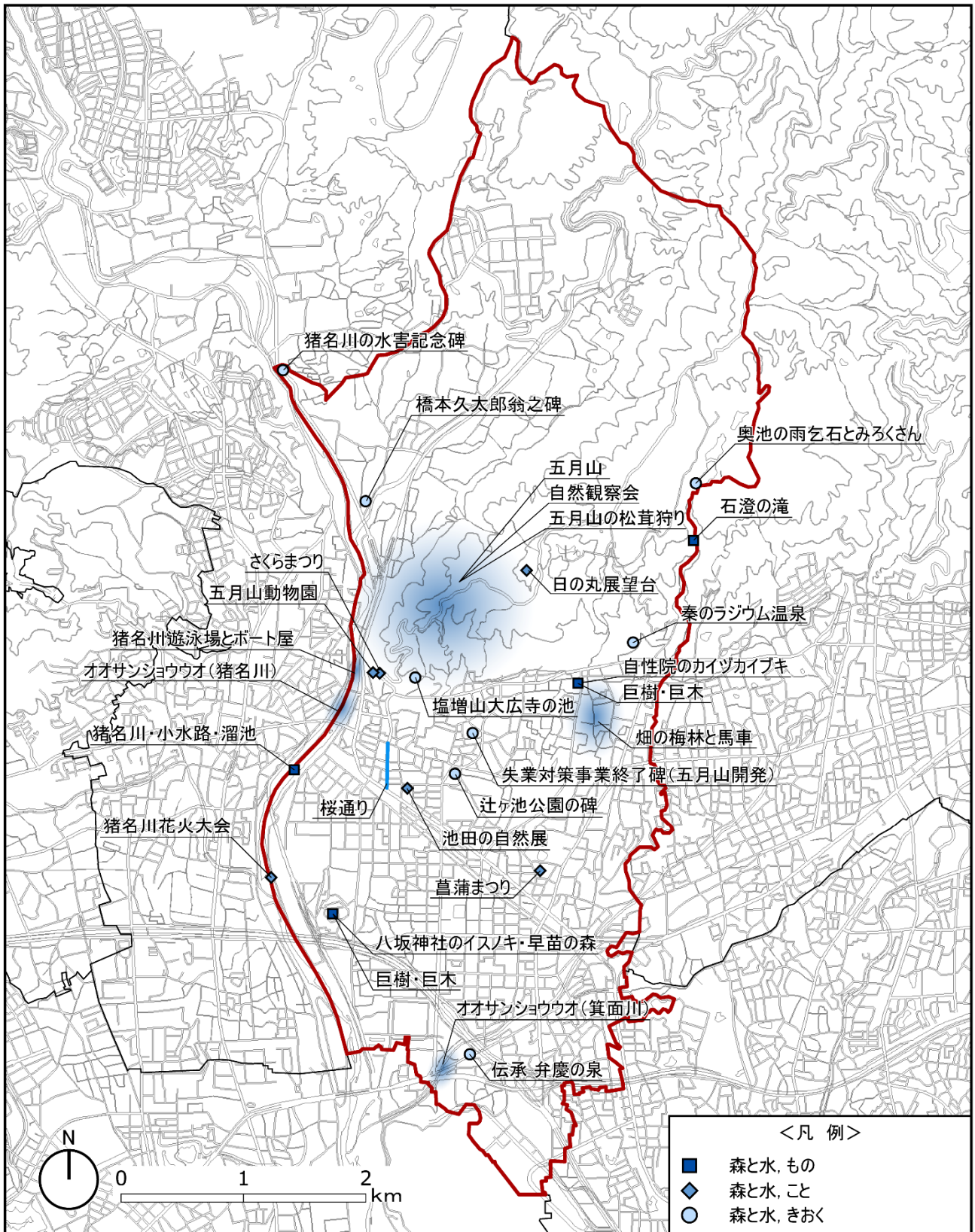


図 4-5 森と水に育まれた歴史文化遺産

表 4-7 関連文化財群を構成する主な歴史文化遺産の概要

テーマ	遺産の名称	時代区分	概要
コミュニティの 力で継承する 歴史文化	池田茶臼山古墳	古墳時代	府指定史跡。前方後円墳。全長 59.5m。堅穴式石室。墳丘より朝顔形埴輪円筒棺などが出土。石室からは土器、ガラス製小玉などが出土。
	上池田薬師堂の薬師如来立像	平安時代	市指定文化財。市内寺社等には、ほかにも指定・未指定の文化財が多数守り伝えられている。
	池田城跡	室町～戦国時代	池田氏の居城跡。一時、池田氏の家臣であった荒木村重の支配下に置かれたが、村重が伊丹に移り廃城となる。
	八坂神社本殿・神田祭	桃山時代	国指定重要建造物。檜皮葺一間社流造、墓股、木鼻、欄間等が桃山時代の特色。市指定民俗文化財の神田祭は幟と額灯が宮入りする伝統的な祭礼が継承されている。
	愛宕火	江戸時代	府指定民俗文化財。別名がんがら火。正保元年（1644）発祥とされ、城山町と建石町で継承。
	牡丹花肖柏遺愛碑・望海亭記碑	江戸時代	江戸時代来、人びとの活動を顕彰・継承・記念する様々な碑が建つ。
ものづくりの 機運に育まれた 歴史文化	伊居太神社	—	延喜式内社。伝承のアヤハトリが祀られたとされる。また、三角縁神獸鏡が神社に伝えられる。
	呉服神社	—	伝承のクレハトリが祀られた神社。19 世紀の神官馬場仲文は呉春に師事していたとされる。
	クレハトリ・アヤハトリの伝承	—	クレハトリ・アヤハトリの 2 人の女性が機織技術を伝えたという伝承。ゆかりの旧跡として市指定史跡「伝承 唐船が淵」のほか、「絹掛けの松」・「星の宮」・「染殿井」・「姫室碑」などがある。
	久安寺楼門	室町時代初期	国指定重要建造物。間口三間、奥行二間の和様唐様折衷様式、前面開放の仏堂形式。久安寺は長久三年摂州細川荘大絵図に描かれている。
	細河植木畑	戦国時代末～江戸時代	江戸時代には大坂・天満の商人との間で植木の取引が盛んになり、全国有数の植木産地として発展。
	稲束家住宅	18 世紀中頃	国登録有形文化財。近世の在郷町中心地を南北に通る街路に東面して建つ。間口 5 間半規模の切妻造、本瓦葺の平入・つし 2 階建商家。
	旧加島銀行池田支店	大正 7 年（1918）	国登録有形文化財。大阪市西区土佐堀に本店をもつ加島銀行の支店だった。
住宅・教育都市 としての 歴史文化	室町住宅	明治 43 年（1910）	阪急電鉄開発で、電鉄会社による本格的郊外住宅の嚆矢。現在も当時の区画割が残されている。
	小林一三記念館 （逸翁美術館旧本館）	昭和 12 年（1937）	阪急東宝グループの創始者小林一三の旧邸「雅俗山荘」。平成 19 年（2007）まで逸翁美術館。昭和 12 年（1937）築で国登録有形文化財。

交流が培った 歴史文化	逸翁美術館所蔵品	—	小林一三の収集した美術工芸品。天平年間の楞伽経をはじめ、豊臣秀吉像画稿、奥細道図、白梅図屏風、三十三間堂通矢図屏風など、国の重要文化財の絵画など。
	大広寺と文人等の墓 など	戦国時代～	池田城主池田充政の創建で、本堂など府指定文化財。連歌師肖柏が庵を結ぶなど、文人交流の場となった寺。市指定史跡の池田氏の墓のほか、池田ゆかりの文人・力士等の墓などが多数ある。
	西光寺と文人等の墓 など	江戸時代	戦国時代の創建。池田ゆかりの文人・市指定史跡の力士の墓などが多数ある。
	能勢街道	江戸時代	能勢と大坂を結ぶ。人の往来や物資の輸送、能勢妙見などへの参詣道としても賑わった。
	池田炭（菊炭）	江戸時代	猪名川上流部で生産された炭の集散地が池田であったため「池田炭」と呼ばれる。切り口が菊のように美しく茶の湯に使用される。
森と水に 育まれた 歴史文化	五月山	—	池田中央部から箕面へ続く山地。サクラやツツジ、紅葉の名所。
	伝承 弁慶の泉	文治元年（1185） 伝承	池田市指定史跡。源義経一行が西国街道を逃れて尼崎まで行く途中、弁慶がこの泉でのどの渇きを潤したと伝えられる泉。
	八坂神社のイスノキ	樹齢 350～400 年	市指定天然記念物。樹高 15m、樹幹 2.3m。池田市内には自生のイスノキは確認されていないため、植栽起源と想定される。